

# 宗像

毎月十五日発行  
社大像  
宗像  
〒811-35 福岡県宗像郡志道町  
電話 0940-62-1311 内  
定価 一年送料共 1000円

## 春季大祭 斎行

### 桜花爛漫の下で神人和楽

く終り。祭典開始時の雨も...



寒い冬が終り、躍動の春の訪れを喜ぶ春季大祭が三月三十一日から三日間に亘り盛大に斎行された。大祭を問はれた三月三十日には、地元総代及び協力会員奉仕により、大祭準備が行われ、境内の装いもすっかり整った。三十一日、午後五時三十分より総社地主祭が行われ、明日からの大祭が無事執行されるよう祈念された。その夜念神職は参籠、心身を清浄にして大祭奉仕に備えた。

く終り。祭典開始時の雨もいつの間にか上がり、明日の青空を予感させるかのような薄雲へと変わっていた。翌四月二日、昨日迄の雨が嘘のような晴天となった。高宮祭場は前日の雨の影響で、午前十時、第二宮・第三宮祭は予定通り斎行された。



午前十時、春季大祭二日祭を斎行。宮司が大満洲日祭を齎し、宮司が御酒奉納し、五穀豊穡を祈る。玉串拝礼を行って祭典を終了した。続いて若布献上に際し、先の日祭で御酒奉納された舞で、それ以降特別の思召しを以て当本社に伝承された。次に十二軍衣を身にまとった地元女子中学生四名が神職に呼ばれ、桜花びらを舞った。宮司が玉串を奉奠、全神職が拝礼の後、氏子会長、鎮国寺住職、神社界代表を始め各代表者が玉串拝礼を行って、祭典は満更無

神具・装束  
結納式用品  
株式会社 井筒  
福岡店  
福岡市博多区東公園二二二一(一)番(電話)三三六六一-一四九五(千石)  
本店  
京都市下京区油小路六条北入(千石)番(電話)三四三三-三四三四  
電話 京都(三三三)三四三三-三四三四

## 春季奉納剣道大会

### 九十二チーム・五百十八名が参加

去る三月十九日(日)、午前九時より、恒例の春季奉納剣道大会が、海海小学校体育館で開催された。この剣道大会は、当大社春季大祭の神賑行事として、毎年当大社境内で行われており、平日の四月一日・二日が平日のため日曜日三月十九日に、しかも前日の雨で境内に水を含み過ぎ、大会の開催が無理となったことから、海海小学校で催すこととなった。また奉納試合であることから、試合に先立ち必ず宗像大神を拝礼する習わしで、会場を移した今年も、競技役員、参加選手全員が宗像大神を遙拝し、選手達は正々堂々と試合に臨むことを大神に誓った。



われ、桜花爛漫の穏やかな春光の下、平素から熱心に茶道を学んでいた当社巫女が、南坊流の袱紗さばきも鮮やかに御前前披露し、濃茶が御前に捧げられた。かくして春季大祭は、草木の芽生えが萌出する季節にうつろいながら、人々は神人和楽を共にし、春のひと時を楽しまれた。尚、三月十九日午前九時より奉納剣道大会が、四月四日には奉納吟詠大会が行われ、大祭にいつそうの花を添えた。

試合は四つの会場で、小学生の部から順次行われ、それぞれのパートで奉納試合にふさわしい熱戦が繰り

われ、桜花爛漫の穏やかな春光の下、平素から熱心に茶道を学んでいた当社巫女が、南坊流の袱紗さばきも鮮やかに御前前披露し、濃茶が御前に捧げられた。かくして春季大祭は、草木の芽生えが萌出する季節にうつろいながら、人々は神人和楽を共にし、春のひと時を楽しまれた。尚、三月十九日午前九時より奉納剣道大会が、四月四日には奉納吟詠大会が行われ、大祭にいつそうの花を添えた。

### 宗像大社歌会詠草

中村 吾郎 選  
第七〇回

日里 後藤 君代 浮羽タムの着き水面のかい つづり春の日さしに浮きつ つづり春の日さしに浮きつ つづり春の日さしに浮きつ	名三屋 小田 喜一 寒空に泣くことひとびくチャ メラの客なきままに遠ざ かりゆく	名三屋 小田 留子 何れも元気であれば幸せ と足病右夫の言葉かなしき	武丸 中村 とき 病院に産まれし雛に逢ひ 度くて写真見てをり風邪に 臥せれば	吉留 高山 信子 髪あても元にもどらぬ弾 力あらぬ髪とくうすら日 の中	大島 目原 節子 大群の陽一葉に旅立は 今日朝浪急な虚しき	吉留 白木ゆめ 根こそぎに西に倒れし杉山 の籠を自動車運ぶを落とす	須恵 馬場 ヤラ 道端に花大根の群咲きて手 の平一ばい摘みつくりぬ	八幡東 大塚ミヤ子 幼孫たるみしわれの乳ふも て空気のめしれ風船と乳ふも	原町 八波 五月 子をかばひなきし道を今は 子が我が肩そばかばひて呉 る	池田 小田 イセ 台風の吹きて此方減る小 鳥戯に屯し雀も鳴かず	福岡東 清原 絹代 沖運く風きたる海面の一所 眞昼の光返してまぶし	徳重 石松 寿子 春雨にぬれし風の小枝には まばゆきばかり露のやどれ	大島 尾形とみえ 喜びを心に持て帰る宵亡 夫の手袖 沈んじ花匂ふ	滋賀 岩瀬 辰夫 桃の節句竹筒抱いて祝勝に 九十の爺無上へ贈し	河東 海 かなる 春疾風吹けば遠き日赤峰の 黄砂は二重の窓を入り来し
--	---	--	---	--	-------------------------------------	---	---	--	---	---------------------------------------	---	--	--	---------------------------------------	--



ワシントン条約京都会議が先月開かれた。クロマゲロの漁獲禁止や象牙の一部輸出問題が眼目として、象牙は印紙の材料として珍重されてきたが、代替品は多い。ところが象牙でないとダメというものが、琴爪で、他の材質では音色が劣れないという。象牙がなければ、それから製品を作る職人は失業する。職人がいなければ、楽器は生産されない。つまり邦楽の衰退につながる。アフリカ象は生き残っても日本の伝統音楽は消えてしまったという事には消えかねない、とA氏は現状を憂えている。

日本の音楽史では、推古天皇二十年(三三)百濟の味摩多持來を初めたことが、外來音楽の初見で、以降外國の音楽や、琉球の蛇皮線が渡來、時代を経て民衆に消化吸収され、やがて江戸時代固有の音楽といわれ邦楽が醸成された。

明治の文明開化とともに洋楽の輸入は、邦楽にも影響を与え遊里趣味から脱却した士族階級の高いものが数多く生みだされた。

当節音楽とせば、それは西洋音楽を意味し邦楽では、邦楽は備前に鑑賞されるだけで、まして三弦を保有する学校は稀である。

象牙の枯渇は邦楽の危機かもしれない。だがその前に邦楽への視点の転換が求められる。邦楽を遊里の類とする偏見を払拭し、それに対する正当な評価と普及が図られてよいと思う。伝統音楽を見直し聴き直して、自国の文化を理解する事が、文化の国際化の前提なのである。

自由ヶ丘 細川 絹子  
頂きし帆を枕辺に三蔵児の  
寝顔がすかに結びてをり  
小倉北 楠原 静子  
打ち寄せる波を指さし幼孫  
海が泳ぐ母につげをり

八幡西 山田 耕夕  
プランターに妻の育てし青  
紫蘇の香り豊かな味噌汁を  
吸ふ

八幡西 山田アヤ子  
枕木に霜おけ朝露々とく  
息白し電燈待つとき

# 松尾神社祭斎行

## 新酒の芳醸を感謝



境内の桜もちらほらと綻び、いよいよ本格的な春到来を感じさせた三月十九日(木)、当社境内未社の一社、松尾神社にて、北筑壮氏組合(約十釀造元、杜氏九名)による酒造報告の祭典が斎行された。

悪天候が続いた三月ではあったが、当日は幸にも雨が降らず、社殿前に晴れ立って、午前二時に祭典が執り行われた。昨年暮れに仕込んだ新酒が芳醸にできたことを感謝すると共に各釀造元が挨拶した。

それにしても、「神道」として祭日とは何か、まき問われなければならぬ。改暦二十年。この節目に、年中行事とりわけ「祭日の本旨を鑑み、国民生活や農事のかかわりを見直し、生活に密着した祭典、祭日を再構築すべきである」という。

たしかに、各地の年中行事を見ると、新暦と旧暦のはさまで、生活実感とかげ離れている現象が少なくない。まして、神事、祭日もなれば、各社の由緒沿革、信仰、歴史等、すべて、その土地特有の土壤に発生したもので、新暦の改暦日(日)にあてはめるだけで事足りしとするとは、祭祀の本質を歪め、ひいては、信仰、伝統の柱を揺るがす結果となる。

このことは、一社の対応は固より、新暦改暦が未知を集めて、積極的に取りくむべき課題である。だが、長年現行祭日について改定してゆくのは至難な業で、今直ちに手直し出来るとは考えにくい(「祭日」の本質、祭りの実質を説き、改定、強化を進める中で、氏子を誘致する手法が重要と思われる。

境内の桜もちらほらと綻び、いよいよ本格的な春到来を感じさせた三月十九日(木)、当社境内未社の一社、松尾神社にて、北筑壮氏組合(約十釀造元、杜氏九名)による酒造報告の祭典が斎行された。

悪天候が続いた三月ではあったが、当日は幸にも雨が降らず、社殿前に晴れ立って、午前二時に祭典が執り行われた。昨年暮れに仕込んだ新酒が芳醸にできたことを感謝すると共に各釀造元が挨拶した。

## 檜苗一千本の奉納 東京都の田中喜八郎氏

本年四月十日、福岡県朝倉郡須賀町の夜須高原に於て、第四十三回全国植樹祭が天皇・皇后陛下の御行幸の御祈願として、この緑をテラキさん達にとり、いつもの通り四月一日より清酒の等類が撤廃され、これ迄慣れ親んだ「二級・一級」のこのため醸造元では、ラベルの改定等その対応が大変だったであろう。しかし本当の意味では、消費者が味でその評価を下すことが正しい立場となる。各釀造元では、味で勝負する戦いの時代を迎えている。

近隣の神職を助動に依頼することもある。従来から七八名で奉仕してきたものが宮司一人、時間がないから神事は簡略、氏子と親しく言葉をかわす暇もなく、次から次へ。まさに苦汗の思いであった。「祭日」に対する認識と信仰の欠落が生んだ、この奇妙な光景に、総代も氏子も、村の指揮を拂ってか、目をそらして無言。この時ほど「祭日とは何か」と、深刻に考えたことになった。

### 見せ所であり、一層の精選をお祈りする次第である

見せ所であり、一層の精選をお祈りする次第である。とあってはこれから先が腕の真の心算を測った。

代表が主事を奉り、一同感謝の真心を捧げた。

引き継ぎ本殿に於ても同様に祭典が斎行され、宗像大神の神恩に感謝すると共に、益々の御加護を願って祭典を閉じ無事終了した。

祭典終了後、斎館で直会が催され、酒造りの苦心談など花が咲いた。

この春は、醸造元や杜氏さん達にとり、いつもの通り四月一日より清酒の等類が撤廃され、これ迄慣れ親んだ「二級・一級」のこのため醸造元では、ラベルの改定等その対応が大変だったであろう。しかし本当の意味では、消費者が味でその評価を下すことが正しい立場となる。各釀造元では、味で勝負する戦いの時代を迎えている。

## 第十六回 春季奉納吟詠大会

### 一誌一話 (15)

### 果してオンドルは渡ってきたか 楽 忞 子

本年四月十日、福岡県朝倉郡須賀町の夜須高原に於て、第四十三回全国植樹祭が天皇・皇后陛下の御行幸の御祈願として、この緑をテラキさん達にとり、いつもの通り四月一日より清酒の等類が撤廃され、これ迄慣れ親んだ「二級・一級」のこのため醸造元では、ラベルの改定等その対応が大変だったであろう。しかし本当の意味では、消費者が味でその評価を下すことが正しい立場となる。各釀造元では、味で勝負する戦いの時代を迎えている。

近隣の神職を助動に依頼することもある。従来から七八名で奉仕してきたものが宮司一人、時間がないから神事は簡略、氏子と親しく言葉をかわす暇もなく、次から次へ。まさに苦汗の思いであった。「祭日」に対する認識と信仰の欠落が生んだ、この奇妙な光景に、総代も氏子も、村の指揮を拂ってか、目をそらして無言。この時ほど「祭日とは何か」と、深刻に考えたことになった。

神道では、祭日を故なく変更するなぞあり得る苦もなし、あってはならないもの。にも拘らず、こうした発想も出る。従来から七八名で奉仕してきたものが宮司一人、時間がないから神事は簡略、氏子と親しく言葉をかわす暇もなく、次から次へ。まさに苦汗の思いであった。「祭日」に対する認識と信仰の欠落が生んだ、この奇妙な光景に、総代も氏子も、村の指揮を拂ってか、目をそらして無言。この時ほど「祭日とは何か」と、深刻に考えたことになった。

先頃、津屋崎町在自の丘(五世紀後半)の堅穴式土居跡の発見が注目されている。同様な遺構は朝鮮半島の新羅(百濟)へ移行した三國の並列である。新羅は北方の高句麗と連帯して百濟や伽倻と対戦し、半島は戦間状態が続いていた。当時の百濟は対岸の百濟・伽倻と友好状態であった。一番近い九州の国々へ海北道を通り、多くの韓人が平和で安定した生活を求めて、大挙して渡来してきたであろう。そうして中絶した。彼等は自分らの文化地帯とした集団地を形成したり、当時の高度な文化を携えてはばばらに居住して行ったことも考えられる。沿岸地の出土品の中に古式朝鮮型土器や青銅器や鉄器等が多く見え、今回の様にオンドルを持つ住居も同様である。

ただし、中央が火鉢の役割をする煙がある開口が三米程度の小さな堅穴式住居にオンドルの必要があったか、また床下に煙道が通る方式では、煙口と煙道で完全な状態の施設にしないと、煙の効果がみられない。オンドルを有する住居址をみると、一辺の壁際に一本の煙道を置いただけの簡単な方式であるが、また現在に焼けた状態である。煙道に火を通すなどの様な使用方式であったか考えたい。粘土状の土の床面を作り、トネルを蜘蛛の巣状に構え、トネルを軸としてオンドルの役割をしたか疑問を残す。

## 祭日を考える

「このままでは村はダメになる」と、危機感におののく村の長老たちは、文殊の智慧で、地域おこし、ムラ興しの戦略を練る。

特効薬はないが、村の鎮守のお祭りを蘇らせ、少しでも村の活性化を図り、連帯を促す。村に光をと思案する。祭りの中心的存在でなければならぬ。若者と子供がいない。学校が休ませてもいい限り、子供はふるさとでの祭りに参加することを許さなさい。企業や官庁は日曜でなければ休めない。企業や官庁は日曜でなければ休めない。企業や官庁は日曜でなければ休めない。企業や官庁は日曜でなければ休めない。

祭日は故なく変更すべきではない。

思いもかけぬ突風に見舞われた神職たちは、「神威を損うことになるから、祭日は故なく変更すべきではない。」

理由の大半は、祭日とは無関係、全くのズレだと、懸命に抵抗し、心あきらめ、頭強に抵抗したが少数派。

荒れ狂つむじ風に抗し切れず、迷って、これまで篤い信仰を支えられてきた祭日や、深い由緒と伝統も祭日がいち無視され、近隣、十数社の祭日が一変した。統一に例祭の斎行を余儀なくされ、神職は、不満のやりに困惑しながらも、本務、兼務の社を駆け回り、神に謝し、祭事奉仕に徹した。とはい

ところが最近、再び、農村を中心と

「このままでは村はダメになる」と、危機感におののく村の長老たちは、文殊の智慧で、地域おこし、ムラ興しの戦略を練る。

特効薬はないが、村の鎮守のお祭りを蘇らせ、少しでも村の活性化を図り、連帯を促す。村に光をと思案する。祭りの中心的存在でなければならぬ。若者と子供がいない。学校が休ませてもいい限り、子供はふるさとでの祭りに参加することを許さなさい。企業や官庁は日曜でなければ休めない。企業や官庁は日曜でなければ休めない。企業や官庁は日曜でなければ休めない。企業や官庁は日曜でなければ休めない。

祭日は故なく変更すべきではない。

思いもかけぬ突風に見舞われた神職たちは、「神威を損うことになるから、祭日は故なく変更すべきではない。」

理由の大半は、祭日とは無関係、全くのズレだと、懸命に抵抗し、心あきらめ、頭強に抵抗したが少数派。

荒れ狂つむじ風に抗し切れず、迷って、これまで篤い信仰を支えられてきた祭日や、深い由緒と伝統も祭日がいち無視され、近隣、十数社の祭日が一変した。統一に例祭の斎行を余儀なくされ、神職は、不満のやりに困惑しながらも、本務、兼務の社を駆け回り、神に謝し、祭事奉仕に徹した。とはい

ところが最近、再び、農村を中心と

果してオンドルは渡ってきたか 楽 忞 子

先頃、津屋崎町在自の丘(五世紀後半)の堅穴式土居跡の発見が注目されている。同様な遺構は朝鮮半島の新羅(百濟)へ移行した三國の並列である。新羅は北方の高句麗と連帯して百濟や伽倻と対戦し、半島は戦間状態が続いていた。当時の百濟は対岸の百濟・伽倻と友好状態であった。一番近い九州の国々へ海北道を通り、多くの韓人が平和で安定した生活を求めて、大挙して渡来してきたであろう。そうして中絶した。彼等は自分らの文化地帯とした集団地を形成したり、当時の高度な文化を携えてはばばらに居住して行ったことも考えられる。沿岸地の出土品の中に古式朝鮮型土器や青銅器や鉄器等が多く見え、今回の様にオンドルを持つ住居も同様である。

ただし、中央が火鉢の役割をする煙がある開口が三米程度の小さな堅穴式住居にオンドルの必要があったか、また床下に煙道が通る方式では、煙口と煙道で完全な状態の施設にしないと、煙の効果がみられない。オンドルを有する住居址をみると、一辺の壁際に一本の煙道を置いただけの簡単な方式であるが、また現在に焼けた状態である。煙道に火を通すなどの様な使用方式であったか考えたい。粘土状の土の床面を作り、トネルを蜘蛛の巣状に構え、トネルを軸としてオンドルの役割をしたか疑問を残す。

# 福岡町立図書館開館

## 蔵書四万冊、公民館と並び文化施設の核に

宗像郡福岡町が、平成二  
年より建設を進めていた町  
立図書館が完成、四月一日  
開館した。



同町では近年とみに流入  
人口が増加、町民の福祉・  
文化・スポーツの拠点とし  
ての諸施設が建設や整備に  
力を入れており、昭和六十  
三年に公民館が完成、平成  
二年には総合運動公園と  
共に図書館の建設も着手  
した。この度竣工した図書  
館は公民館と並び文化施設  
の核として、その役割が大  
いに期待される。

同図書館は、福岡町役場  
に隣接して建設され、総床  
面積二千七百六十平方メ  
ートルの鉄筋コンクリート造  
三階建。  
一階に図書室の他、視覚  
障害者のための録音・対面  
朗読室、音楽・映像図書  
ビデオ、CD、LDなどが  
楽しめるAVコーナー、調査  
研究、地域、行政の各資料  
が揃っているレファレンス  
コーナー、子供達の夢と創  
意を育むおはなしコーナー  
などが設けられ、一階には、  
講演会や研修会などに利用  
できる収容数の視聴覚室と  
研修室(三室)、絵画、  
写真、ポスター、工芸品な  
どの展示に利用できるキャ  
ラリーがある。また地下一  
階は駐車場となっている。  
特に四階の蔵書の内、  
絵本などの児童書が一万余  
冊もあり、図書室内に見  
る書庫コーナーを設けている  
上、書庫のように表紙を表  
し、子供達にわかりやすく  
いよに並べているのが特  
徴。その他にも雑誌百八十  
五誌、ビデオソフト五百五  
十点、音楽・映像ソフト千  
点、紙芝居、百組も用意さ  
れている。

# 氏子会評議員会開催

## 春季大祭・役員改選等審議

去る三月二十四日(火)、  
午前十一時より当大社清明  
殿に於て、氏子会評議員会  
が開催された。  
会議は先立ち出席者全員  
で正式参拝を行い、お祝儀  
を受けた後、氏子会河野会  
長の玉串捧げに併せて拝礼  
した。  
当日は宗像郡市内各地区  
の評議員六十余名と、神社  
側より養父宮司以下担当職  
員が出席し、定刻午前十一  
時に開会された。  
会議は各部副会長の開会  
の辞に続き、国歌斉唱、神  
宮草履居座参拝、敬神生活の  
綱領唱和の後、河野会長、  
養父宮司と来賓の宗像市議

会松尾昭夫議長がそれぞれ  
挨拶された。  
次いで本日の議事に入り、  
当大社春季大祭につき、祭  
儀部長山田祐章が日程、祭  
典、諸行事等の詳細な説明  
を行い、評議員各位を始め  
氏子の皆様方多数の参拝を  
お願いした。  
尚、大祭ご奉仕いただ  
く氏子奉仕等は、当番の津  
屋崎町より選出していただ  
き、津屋崎地区評議員の安  
部勝美氏に決定した。  
次に役員改選につき、事  
務局より氏子役員員の任期  
が今期で満了、改選期に当  
るため新役員員の選出を四月  
の臨時評議員会で行う旨提

造を育むおはなしコーナー  
などが設けられ、一階には、  
講演会や研修会などに利用  
できる収容数の視聴覚室と  
研修室(三室)、絵画、  
写真、ポスター、工芸品な  
どの展示に利用できるキャ  
ラリーがある。また地下一  
階は駐車場となっている。  
特に四階の蔵書の内、  
絵本などの児童書が一万余  
冊もあり、図書室内に見  
る書庫コーナーを設けている  
上、書庫のように表紙を表  
し、子供達にわかりやすく  
いよに並べているのが特  
徴。その他にも雑誌百八十  
五誌、ビデオソフト五百五  
十点、音楽・映像ソフト千  
点、紙芝居、百組も用意さ  
れている。

# 「正助ふるさと村」オープン

## 孝子武丸正助さんの遺徳を顕彰

宗像市が昨年同市吉  
武地区に建設を進めていた  
「正助ふるさと村」が、この  
程完成し、四月十六日(日)にオープ  
ンする。  
「正助さん」は、江戸時  
代の人で、戦前の修身(道  
徳)の教科書にも登場する  
孝行息子。親孝行で人や動  
物、自然にも優しくした正  
助さんは、古くから市民に  
親しまれている。  
正助ふるさと村は、この  
正助さんの遺徳顕彰を目的  
に、正助廟のある一帯を公  
園として整備。「親孝行」  
と自然との触れ合いを、  
主題に建設されたもので、  
総面積六ヘクタール、総工  
費八億七千万円。  
同村には、正助さんの遺  
品や資料なども展示した新  
しい「正助廟」、体験学習  
館の「おやいの家」、郷土  
料理の店「正助茶屋」、体  
験農場、貸し農園の市民農  
園、円形芝生広場などがあ  
る。  
おやいの家は、ログキャ



6/9	火	宗像各地 8:00—最寄IC—関門橋—中国自動車道—三次IC—三次(昼食)—赤名—穴道湖—めのうセンター—八重垣神社—17:30皆生温泉(泊)
ホテル松藩園 ☎0859-22-3107		
6/10	水	ホテル 8:00—七瀬港—フェリー—浦郷港(昼食)—国賀めぐり—(遊覧船・通天橋・摩天橋など数々の名勝あり)—15:10船越—黒木御所—別府港—フェリー—西郷港—19:00 松江温泉(泊)
島の湯荘 ☎08512-2-1322		
6/11	木	ホテル 8:30—島後観光(玉若神社・隠岐国分寺・水若神社・郷土館・中村・白鳥展望台・かぶら杉)—西郷港—七瀬港—18:30 松江温泉(泊)
神の湯 ☎0852-21-2655		
6/12	金	ホテル 8:30—畑薬師—出雲大社(特別参拝)—ワイン工場—出雲(昼食)—三刀屋—三次IC—最寄IC—19:30 宗像各地

# 責任役員会議開催

## 平成四年度予算案外を審議

桜花の綻びが春風にしつ  
とりと濡れ、一段と美しさ  
を増した三月十八日(水)、  
平成四年度の当大社予算案  
並びに今後の神徳祭揚・教  
育方針など重要議案を審議  
する、責任役員会議が当大  
社本館にて開催された。  
定刻午前十一時、出光昭  
介(代理渡辺茂太郎、永  
倉三郎(代理国分敏光、  
布江彌助(代理三浦寛一、  
河野幸人、占部文男、委  
任状占部真太郎、山本三  
吾、古野芳人、各責任役員  
と、当大社より養父宮司以  
下関係職員が出席して開催  
された。

# 社務日誌抄

- 三月一日 月次祭
- 三月二日 孔大社社祭
- 三月三日 福岡県社務役員選挙四名案内
- 三月四日 三笠建設機工(株)社長白井久仁氏氏外三名参社
- 三月五日 山口県社務所阿東支部代表長西坂英政氏神職会・総代会・敬神婦人部五十七名参拝
- 三月六日 出光興産(株)広報課長鈴木聰氏外一名参拝
- 三月八日 九州燃料代表取締役有馬一郎氏外十七名参拝
- 三月九日 宗像署署副署長有田昇氏転任挨拶のため参社
- 三月十日 (株)新出光新人社告第四十三名参拝入社奉告案内
- 三月十一日 高根原物産社社務員中田武伸氏参拝
- 三月十二日 作家赤瀬川隆平氏、(株)岩田屋守水・彦氏外三名参社
- 三月十三日 福岡国税局長野村興氏、同総務部秘書係長島崎秀吉氏、
- 三月十三日 香根税務長佐藤彦彦氏・筆頭副署長志村寅義氏来社
- 三月十二日 宗像市社務局長二名来社
- 三月十三日 宗像市社務局役員会
- 三月十三日 福岡町老人会三十五名参拝
- 三月十五日 月次祭
- 三月十六日 奉納祝賀会
- 三月十八日 宗像社責任役員会議
- 三月十八日 出光興産(株)本店五社参拝
- 三月十九日 松尾昭夫氏参拝
- 三月十九日 出光興産(株)神徳祭揚・店業務課長井藤彦氏・出光札幌油保保保協力会五社参拝
- 三月二十日 自費参拝
- 三月二十日 宗像市社務局長 主基地方風俗保存会役員会
- 三月二十四日 宗像大社氏子評議員会
- 三月二十四日 出光興産(株)技術研修センター徳山理氏理事崎志氏外一名参社
- 三月二十六日 養父宮司第六一回神宮式遷宮皇大神宮・榊原列
- 三月二十七日 伊勢湾シーパース(株)社長永木雄氏外一名参拝
- 三月二十九日 春奉納刺道大会於玄海小体育館
- 三月二十九日 出光興産(株)専務取締役麻生和正氏夫人外三名参拝
- 三月三十日 出光興産(株)製油所製油二行二名参拝
- 三月三十日 佐世保市住吉神社宮司堀崎氏、同神社総代会、敬神婦人部三名参拝
- 三月三十日 鐘崎駐在所木政雄氏赴任挨拶のため来社
- 三月三十一日 地元総代並力春奉納大祭諸準備奉仕
- 三月三十一日 春子奉納育宮祭
- 三月三十一日 出光興産(株)計算センターシステム課長岡田康幸氏外一名参拝

平成四年度宗像大社氏子会研修旅行を左記の日程にて実施致しますので、奮ってご参加下さいませよう。ご案内申し上げます。

旅行日 六月九日(火)〜十二日(金) 三泊四日  
締切日 五月十一日(月)  
旅行費用 五四〇〇〇円  
予約金 一〇、〇〇〇円(申込時に納入)  
申込先 宗像大社氏子会事務局(六二二二二) 参加資格 宗像郡市内にお住いの方であれば、何方様でも参加できます。

